

自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成する小学校外国語科学習指導 ー考えながら伝え合う学習活動と会話をつなぐ指導を通してー

令和元年度 前橋長期研修研究員 古口 晃敬

研究の概要

主題設定の理由

【外国語科が抱える課題】

- 外国語の授業の中で、知識及び技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことに課題がある。（国、県、市の課題）
- モデル会話を提示し、それを暗記して発表する授業になっていること。会話をつなげたり、考えながら話したりしていないこと。

外国語科の授業で、思考・判断しながら自分の考えや気持ちを表現する力が必要である。

【研究主題】

自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成する小学校外国語科学習指導

研究のねらい

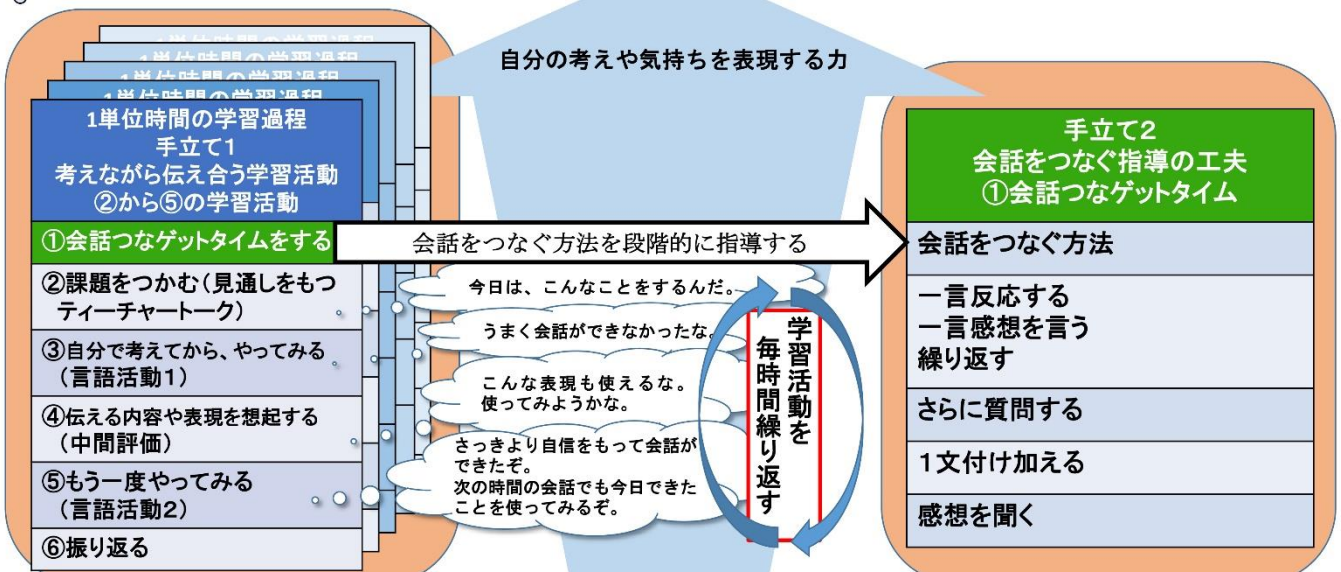
自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成するために、「考えながら伝え合う学習活動」と「会話をつなぐ指導」が有効であることを実践を通して明らかにする。

【目指す児童像】

目的・場面・状況等に応じて、児童自身が伝えたい内容や必要だと捉えた英語表現を自由に活用し、相手に配慮しその場で考えながら表現できる児童

研究構想図

自分の考えや気持ちを表現できる児童



児童の実態

- 与えられた英語表現を暗記して発表しているので、考えながら話していない。
- 会話がすぐにとぎれてしまい、続かない。

実践の概要

手立て1 考えながら伝え合う学習活動

1単位時間の学習過程

□の②～⑤が
考えながら伝え合う
学習活動の場面

① 会話つなゲットアイムをする

(手立て2で活用)

② 課題をつかむ

(見通しをもつ
ティーチャートーク)

JTE(日本人の英語教師)とALT、JTEと児童との会話で、やり取りの見通しをもつ。

③ 自分で考えてからやってみる

(言語活動1)

自分でやり取りの内容を考え、隣同士でやってみる。児童はやり取りの中で、うまくいったこと、いかなかったことについて考える。

④ 伝える内容や表現を想起する

(中間評価)

言語活動1での児童の困り感をもとに、内容や表現を確認し、言語活動2につなげるようにする。

A 内容・表現確認
B ペア作戦タイム

⑤ もう一度やってみる

(言語活動2)

内容や表現を自分のものにして、自信をもってやり取りする。

⑥ 振り返る

考えながら伝え合う学習活動とは

伝えたい内容や会話に必要な表現を児童自らが考えながら伝え合えるようにするため、1単位時間の学習過程の中に設定した、「見通しをもつティーチャートーク」と「言語活動1→中間評価→言語活動2」という学習活動

1時間目 ALTの友達に宮城小を紹介しよう (We can!2 Unit4 I like my town.)



We haveが使えるそうだな。

You can enjoyなんて表現もあるぞ。

JTEとALTとの会話

A: ALT's friend T: JTE

A: I don't know Japanese schools.

T: Ok. I'll show you Miyagi elementary school.

We have three pools. You can enjoy swimming.

A: Oh, three pools. Nice.

T: We have a playground. You can play soccer.

You can study P.E.

A: Play soccer. I see. Do you have a gym?

T: Yes, I do. We have a new gym. You can play dodgeball.

A: Thank you.

下線部を意識して児童に聞かせ、やり取りに必要な表現に気付く。

We have Miyagi elementary school. プールで泳げるよって何て言えばいいの？



何て言えばいいんだろう？ うまく紹介できないな。

会話の型を提示していないため、「We have」が使えるのは分かったが、どう活用すれば紹介できるか、児童はこの時点では分からない。



宮城小を上手く紹介できなかった。どうしよう。

他の場所も紹介したいけど、分からない。

何と行って始めればいいんだろう？

会話するって難しいな。

言語活動1で生じた児童の困り感

A 内容・表現確認

You can seeを使ってみようかな。どう使う？

家庭科室で、何を紹介しようか？

プールで泳ぐって何て言うんだっけ？



それなら、You can study musicは？

音楽室を紹介したいんだけど、どう言えばいい？



B ペア作戦タイム

困り感を改善するために、教師が、内容・表現を、児童の必要に応じて提示し、児童は紹介する内容を考える。

内容・表現確認を生かし、どんなやり取りができるかを隣の児童と相談し、紹介内容を考える。

We have a music room. You can study music. えーと、You can play the piano.



さっきやった時(言語活動1)よりしゃべれるようになったぞ。

We haveやYou can studyは使えるそうだな。

中間評価で自分が捉えた内容や表現を活用してやり取りする経験を通して、自信をもって自分の考えや気持ちを表現できる。

会話をつなぐ指導とは

会話を支えるコミュニケーションを円滑にする力を高めるために、授業の導入に取り入れた帯活動「会話つなゲットタイム」で段階的に行う会話をつなぐ方法の指導

会話つなゲットタイムって何？

相手の話した内容に反応したり、質問したりしながら、相手と会話をつなげるようにする活動だよ。進め方はこれだよ(右図)。

どうやったら会話をつなげられるの？

それはね、会話をつなぐ方法を毎時間少しずつ学んでいって、学んだ会話をつなぐ方法を意識して使っていくんだよ。会話をつなぐ方法はこれだよ(下図)。

会話つなゲットタイムの進め方

- ①教師と児童(ALT)のやり取り
- ②児童と児童の会話1
- ③指導
- ④児童と児童の会話2

会話をつなぐ方法(例)

会話をつなぐ方法	目的	内容
一言反応する	相手の話した内容について理解していることを伝える。	I see. Me, too. I know. Really? It's your turn.
一言感想を言う	相手の話した内容に自分の感想を簡単に述べる。	Good. Nice. Cool! Great. That's O. It's O.
繰り返す	相手の話した内容の中心となる文や語を繰り返し確かめる。	A: I like apples. B: Oh, you like apples.
さらに質問する	相手の話した内容についてくわしく知るため質問する。	How about you? Do you like O? What O do you like? Why?
一文付け加える	自分の話した内容をくわしく説明する。	I like soccer. I play soccer on Sundays.
感想を聞く	自分の話した内容について感想を聞く。	What do you think about O?

7時間目 コロンビアのパラリンピック選手に日本独自のもの(場所)を紹介しよう

(We can!2 unit 4 I like my town.)

A: Do you like movies?
B: Yes, I do.
A: Nice. (一言感想を言う) We have a video store.
You can enjoy movies. (一文付け加える)
How about you? (さらに質問する)
B: We have a movie theater in Maebashi.
A: I see. (一言反応する)
B: You can see movies. Do you like shopping? (さらに質問する)
A: No, I don't.
B: Really? (一言反応する) Why? (さらに質問する)
A: 混んでるから。
B: I see. (一言反応する) Do you like ramen?
A: Yes, I do.
B: You like ramen. (繰り返す) Nice. (一言感想を言う)
We have a ramen shop in Maebashi.

会話つなゲットタイムで学んだ会話をつなぐ方法を使って、友達をパラリンピック選手だと思って会話をしている様子だよ。会話をつなぐ方法をたくさん使って会話をしているよ。

会話をつなぐ方法を段階的に学び、それを意識しながら活用してきたことで、やり取りにつながりが生まれている。児童は、相手を意識して会話をつなごうとしたことで相手に合わせて考えながらやり取りができるようになり、コミュニケーションを円滑にする力が高まった。

実践のまとめ

研究の成果

【手立て1】考えながら伝え合う学習活動の成果

1単位時間の学習過程の中に、「見通しをもつティーチャートーク」と「言語活動1→中間評価→言語活動2」を取り入れたことで、児童は、伝えたい内容や紹介に必要な表現をどのように活用したらよいか考えながら言語活動に臨むことができ、少しずつやり取りの質を向上させることができた。そのような学習活動を8時間続けていくことで、目的・場面・状況等に応じて、**その場で考えながら自分の考えや気持ちを表現することができた。**

【手立て2】会話をつなぐ指導の成果

授業の帯活動として、**会話つなげタイム**で段階的に会話をつなぐ方法を指導したことで、児童はそれを言語活動の中で意識して使い、相手に配慮し自然なやり取りの中で会話をつなぐことができるようになった。その結果、コミュニケーションを円滑にする力が大きく高まった。その力を手立て1の学習活動で活用することで、**相手に配慮しながら自分の考えや気持ちを表現することができた。**

手立て1、2における児童の成長の姿(8時間目の振り返りから)

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。

今まで**続かなか**った会話が **How about you?** などを使って話を長くすることができた。さらに質問をして相手の好みを探り出しながら会話をより長く長くするようにした。日本独自の事を考え、豆ひちで整理しながらできました。

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。

使うような表現し相手の事を引出す表現を使って自分から相手に**伝えるよ**くなった事と相手が行っているか何をきかれているか分かるようになった。相手は何が**ずか**りかきいて、場所と紹介で**きく**ことかできた。相手に**反応**できるようにした。

実線は、手立て1の成果を、点線は手立て2の成果を表している。

このような児童の姿が表出されたのは、「児童が目的・場面・状況等の異なる言語活動を単元を通して繰り返し行ったこと」や「自分のものとなった知識・技能を活用し、**考えながら自由に表現していく経験を多く積み上げたこと**」が要因であると考える。

研究を通して

児童は、手立て1、2を通して、**相手に配慮し、その場で考えながら**自分の考えや気持ちを表現できるようになった。

児童にとって普段の生活の中で必要感をもちにくい英語を第二言語として習得するのは困難なことである。しかし、本研究を通して、**児童が必要だと感じた内容や表現を提示し、児童自身が自由に表現を考えていく言語活動を多く積み上げる**ことが、第二言語習得の一助になるのではないかと考える。

今後の課題

児童が、見通しをもち言語活動を行う中で、**児童の困り感**を見取るとともに、その困り感に応じて、教師がアドバイスをしたり、児童同士でアドバイスし合う活動を設定したりする。見取りを行う際には、どのように見取ると児童の会話の質を向上させられるかを考え、**児童の活動の結果だけではなく、活動の様子を積極的に評価する**必要があると考える。